

健康医療市民会議

第8回（11月）定例会のご案内



丹頂鶴が飛来し、旭川では雪のニュースも聞こえる季節になってきましたが会員皆様におかれましては、ますますご健勝のことと思います。ただ、救急車に乗っても連れて行ってもらえる病院がない・・・医師不足は産科に限りません・・・こともあり得る現実があります。うっかり病気にはなれないということも現実的な話に感じられるこの頃です。

前回第7回（10月）定例会はがんの最先端治療法「重粒子線によるがん治療」のお話を放射線医学総合研究所顧問の平尾泰男先生から、また、「アンチエイジングのすすめ」と題して若返りの秘訣を北里大学名誉教授の塩谷信幸先生からお聞きしました。前者については、まだ世界でドイツと日本（千葉と兵庫）だけで臨床が行われている最新医療法ですが、梶原代表初め、当会にはこの治療を受けた“生きた”証人が何人もおられるので力強い限りです。一方、塩谷先生のお話は、アンチエイジングはまさに統合医療であり、最後にご紹介のあった「アンチエイジングの5カ条」を心に刻んで生き甲斐のある質の高い生活を送りましょうと言うことでした。定例会の詳細は添付、定例会のメモをご覧ください。

さて、第8回（11月）定例会も、やはり、がんとの対決が中心的テーマです。がんによる死亡者数は、これだけ治療法が進歩しているにも関わらず増加の一途をたどっています。予防法も含めて何かがおかしいわけですね。今回もお二人の先生をお招きしています。まず、統合医療のパイオニアである帯津三敬病院名誉院長の帯津良一先生から、がんは総力戦でなければ治せないというお話を聞きます。また、がん等難病の自然治癒の方法を長年研究されている自然医学総合研究所所長大沼善譽先生から「新血液学理論による統合医療の症例」と題して、卵巣がん、脳腫瘍等難病の症例のお話を伺います。（講演案内別紙）。参加、不参加のお返事を、FAXあるいはEメールにてお願いします。

平成20年10月30日 健康医療市民会議 事務局

日時：11月18日（火） 午後4時～6時（3時より別紙紹介のデモがあります）

場所：国際医療福祉大学大学院東京サテライトキャンパス（青山1丁目タワー・会場案内別紙）

講演：帯津三敬病院名誉院長 帯津良一先生「統合医療のパイオニアとして」

自然医学総合研究所所長 よしのり 大沼善譽先生「新血液学理論による統合医療の症例」

梶原代表から中間報告もあります。今回は、健康度自己測定はお休みですが、自然医学総合研究所のスタッフによる「ゴムバンド療法」のデモ（別紙）を3時より開いています。

講演案内

「統合医療のパイオニアとして」 帯津三敬病院名誉院長 帯津良一先生

帯津先生は外科医ですが、西洋医学におけるがんの治療の進歩については目覚ましいものがあるにも関わらず治療成績が向上していないことに疑問を抱き、西洋医学の限界をすでに昭和40年代に認識されていました。西洋医学では、がんの病巣だけを相手にして、切除したり焼き殺したりする治療ですが、がんは人間全体の秩序の歪みから来るもので、それを回復することが重要という考えに立ち、いわゆるホリスティック医学（全人的医療）の推進に努力されてきました。統合医療のパイオニアとしては多くの著書でも著名な先生ですが、自ら設立した病院でも、心や気の重要性、自然治癒力の重要性、患者自身が治療の主体であることの重要性、西洋医学に中国医学、インド医学などの伝統医学、心理療法、食事療法、運動療法など様々な治療法を総合的に取り入れることの重要性を訴えて多くの臨床で成果を上げて来られました。

<帯津先生略歴>

1961年 東京大学医学部卒

共立蒲原総合病院外科医長、都立駒込病院外科医長など歴任

1982年 帯津三敬病院設立・院長

現在、同病院名誉院長、日本ホリスティック医学協会会長、埼玉医大総合医療センター外科非常勤講師、等。

「新血液学理論による統合医療の症例」 自然医学総合研究所所長 大沼善譽^{よしのり}先生

病気はライフスタイル（食生活・環境・心）が乱れることによって発症し、それを改善することによって治癒することが出来るというのが自然医学の考え方です。この考えを提唱されている森下敬一博士の影響を受け、自ら、西洋医学の盲点、矛盾を研究するとともに、がん、白血病、リウマチなど多くの難病の自然治癒の可能性を追求し、1998年には、自然治癒の原理となる血液動態医学理論を確立され、自然医学総合研究所を開設。実際に、多くの成功臨床例を作って来られました。最近では、国際的にも多くの講演活動をされています。今回の講演では、具体的に、同理論に基づく脳腫瘍、卵巣がん、急性散在性脊髄炎の症例をご紹介いただき、さらに、簡単にできる前立腺がんの予防法、ゴムバンド療法などに触れて頂く予定です。

<大沼先生略歴>

1950年北海道生まれ 中学の時に骨髄造血に矛盾を感じ独学研究

1982年森下敬一医学博士の腸管造血理論に啓発

1986年自然良能会名古屋支部開設、椎間板ヘルニアの自然修復を実証

1996年自然医学総合研究所開設、血液動態医学理論を確立

2006年NPO国際自然免疫学会を創立

会場案内

場所：国際医療福祉大学大学院 東京サテライトキャンパス
東京都港区南青山1-3-3 青山1丁目タワー5F
(銀座線・大江戸線「青山1丁目」が便利です)



- ・「青山1丁目」3番出口を出て左(南)に歩くとすぐに見える高層ビル
- ・入館してすぐにあるエレベータで5Fまで昇ってください
- ・駐車場はありません。やむを得ず車でお越しの場合は、青山ツインタワーの駐車場などをご利用ください。
- ・当日は午後2時以降は当会オフィスにはスタッフが不在となります。ご連絡は、
090-3044-6801 (後藤)
までお願いします。

参加費等

会員 (お一人) ￥2000

ビジター (お一人) ￥3000

(個人会員のご同伴はビジター扱いとなります)

飲み物 (お茶・ペットボトル) のサービスがあります

ゴムバンド療法のデモ・書籍販売について

大沼先生からゴムバンド療法についても触れられる予定ですが、ゴムバンド療法は血行を良くして、肩こり、腰痛、手足のしびれを初め、風邪、椎間板ヘルニアなどの治癒に有効な方法だということです。自然医学総合研究所のスタッフの方が使用法などデモをして頂きます。また、専用ゴムバンドの販売もあります。3時からやっていますので、興味のある方はお早目にお越しください。また、先生の著書「がんの盲点」「自然治癒を科学する」「椎間板ヘルニアは確実に治る」の販売もあります。

F A X : 03-5403-7724 健康医療市民会議宛て

第 8 回 (11 月) 定例会参加申込書

F A X 送信日 : 11 月 ____ 日

11 月 18 日 (火) の定例会に

- A. 参加します
- B. 参加しません

ご氏名 : _____

事務局にご連絡事項等 (住所変更、ご同伴者など) あればお書きください。

なお、郵便 (飛脚便) に代えて、E メールにて、定例会のご案内 (Word File 添付の形式) をご希望される場合には、 **Info@kisk.jp** まで、たとえば、

- ・参加
- ・Eメールに変更希望

と書いてお送りください。

患者・市民本位で健康医療を考え、行動します

健康医療市民会議

〒105-0013 東京都港区浜松町 1-12-2 東武ハイライン大門 203

TEL: 03(5403)7723 FAX: 03(5403)7724 E-Mail: Info@kisk.jp URL: www.kisk.jp

第七回（10月）健康医療市民会議定例会メモ

H20年10月21日16-18時

国際医療福祉大学大学院東京サテライトキャンパス（南青山一丁目）

1 梶原代表から市民会議の経過説明等

中間報告の資料等に基づき説明。①準備会の講演を含めると丁度一年の活動となる。この定例会の第一回の講師をして頂いた武藤徹一郎先生が長く院長をされていた（現名誉院長）がん研有明病院が2008年「朝日がん大賞」受賞。おめでとう御座いますと御出席の先生を紹介。②第五回の講師小川真誠先生の「認知症は治る」の三箇月治療の上海での活動の波紋から、上海や台湾台南市での旅行滞在コース開始の勧誘等の動きがあり、日本でも御殿場市での活動開始。某女優さんの治療を支援する動きも。③今回は代表自らが五年前選択し前立腺がんを治療した平尾泰男先生の「重粒子線がん治療」のお話と塩谷信幸先生の若返り術のお話、次回11月は統合医療実践のパイオニア帯津良一先生と自然医学の大沼善誉先生の実証例のお話をとの紹介。④12月は懇親会とし、来年からは講師のお話や意見交換の時間を確保するため、定例会の講師は原則一人としたい。⑤最近の食料の安全の社会問題を見ても、市民自身の勉強が大切で、現在会員に20名のモニターをやっていただいている水素系のサプリメントは一名(全く元気で問題ない方)を除き全員の方が効果あると評価していただいた。また本日、足裏の健足療法の低周波治療器のデモンストレーションとモニターを募集しているので関心のある方は対応を。その他の項目の事業計画は次回提出したい。⑥また患者や治療医に患者の体験談を集約整理し、データベース化して提供する国際組織(英国オックスフォード大学発)の日本活動「DIPEX-Japan」を立ち上げる活動があり、連携を検討したい(その後スタッフの「佐久間りかさん」から前立腺がん、乳がんからまず立上げ09年6月に提供を開始するための現在の活動状況の紹介があり、市民会議の紹介の方もこの「語り」に参加されるとの報告が)。

2 講演「世界最先端技術・重粒子線によるがん治療」

平尾泰男・独立行政法人放射線医療総合研究所・名誉研究員

重粒子線治療の研究ですが、私は原子物理学者です。戦後米軍が原子物理関係の研究を探しまわっていた時からですので、60年の研究になります。核物理の研究には加速器が必要です。物理学的研究と、医療的研究がありますが後者を優先して研究しました。世界では1936&7年から研究が始まりましたが、戦後46年ロバートウイルソンが陽子重粒子の応用の研究、61年ハーバード大学が陽子ガン治療、73年バークレー校でネオンガン治療の研究をはじめたが、機器の質が必ずしも良くないので、日本でやろうということで、77年平尾先生、79年平野先生、81年梅垣先生等が研究を始められ、83年筑波大学で陽子線治療開始。83年中曽根内閣が対ガン10ヵ年総合戦略を策定し新治療法の開発に科学技術庁が力を入れた。実施を放射線総合研究所にやらせると言うことで東大を退職し千葉に移転した。87年重粒子ガン治療機器の設置に取組み93年完成。陽子からアルゴンまでの放射線で30cm深度までの可能。94年世界初の重粒子線がん治療装置HIMACを用いた臨床試験で14年間で4000以上の治療例が得られている。97年重粒子医科学センター病院開設。世界で稼働しているのは放射研と兵庫県とドイツの三箇所です。日本ではガンで30万人死亡、2015年に

は 50 万人とされていますが、目標は死亡率を下げることで、肺がんや肝臓がんなどや手術の難しい骨転移や悪性黒色腫の治療も目指している。そして多くの臨床実験の**治療前と治療経過の写真**を示しながら放射線の種類による**試験結果**などを数値で示して**肝臓がん、肺がん、目のがん、悪性黒色腫、前立腺がん、骨肉腫**等の例を丁寧に御説明されました。また治療日数と照射回数の組合せや一回4門照射などの病院滞在時間の改善例も示されました。会場からの「治療費は」との質問に「車一台分 314 万円。高い安いの議論あるが、政党や役所にも理解を求めていくことは大切」とされ、満場の拍手で締めくくられました。

<<言葉補注 放射線治療には症状に応じ「X線・γ線治療」「陽子線治療」「速中性子線治療」「重粒子線治療」があり、「重粒子線」とは広義には電子より重い粒子を加速器で高速に加速したものをいい、さらに「中性子線(病巣への集中度が良い)」「陽子線(ガン細胞への致死効果が高い)」「重イオン(炭素 ネオン アルゴン等)線(病巣への集中度、ガン細胞致死効果が高い)」に分けられ、それぞれ固有の特徴を持つ。HIMAC・Heavy Ion Medical Accelerator in Chiba では He C N O Ne Si Ar が加速できるが特に炭素イオン C が主として利用されている。ガン細胞の位置、大きさ、形状に合わせて集中的に照射する治療法>>

3 講演「アンチエイジングのすすめ」塩谷信幸・北里大学名誉教授・ACCクリニック 名誉院長・NPO アンチエイジングネットワーク理事長・日本抗加齢医学会顧問

長寿の秘訣は、まず「**バランスのよい食事と適度の運動**」が大切。父は 100 歳で玄米と菜食。外科医の定年に関し「ザウエルブルッフの悲劇」(昔のドイツの話。ザウエルブルッフは名外科医だったが年を取ってボケて手術の失敗を重ねた)を例に年齢で判断力や智慧は上昇しても名声が上ったら注意をと。年齢には、「**暦年齢**」と「**生物学的年齢**」がある。病気予防、社会性、判断力と体力に注意することが大切。平均寿命は男性 78-9 歳、女性 85-6 歳。女性はストレスに強く、不要物の排泄力強い。老化防止は今からでも遅くない。プライドが邪魔。全て自己の責任であり、頑張れば半年で改善。反復練習は必要。クオリティーオブライフは「**生甲斐を持ち、人に役立つこと**」をすること。

「**老化の原因**」には、**細胞時計説 内分泌説(ホルモン低下) 免疫機能低下説 DNA 損傷説 活性酸素説等様々**。皮膚の若返りは適度の運動、エアロビック運動 20-30 分週 4-5 日、食事 70 歳 1800cal、水分も多めに、サプリメントでビタミン B6、葉酸、B12、C、E。ミネラル鉄、Ca ホルモン剤等の補給に注意。また発汗、解毒、マイナスイオン、排泄も大切。男性にも更年期障害。皮膚の老化は、紫外線等の**光老化・フリーラジカル・皮膚の乾燥・皮膚の非薄化**が主原因。スキンケア、鍼灸、コラーゲン等々の御説明。

アンチエイジングは統合医療そのもの。美しく楽しく生甲斐のある人生を目指そう。

最後に、NPO 法人の「**アンチエイジングの五箇条**」の御披露がありました。

- 1 いくつになっても男と女
- 2 肌の若返りは心の若返り
- 3 バランスの良い食事と適度の運動
- 4 よく笑い、よく話し、よく噛む
- 5 長生きこそ最大の誇り

会員最大の関心の若返りの秘訣に、女性会員も男性会員も大喝采。次の書籍の紹介もありました。

○ 「アンチエイジングのすすめ—1年で10歳若返る」塩谷信幸著 幻冬社

◎講演前には血管年齢、脳年齢などの健康測定器に多くの会員がチャレンジ。今回は、講演の合間に梶原代表から各部門の最優秀者に、代表自身の嗜好品「ちこり芋の高級焼酎(アンディーヴ・グラッパ)」がプレゼントされ、満場の大拍手。良好な自律神経賞は山中暁夫さん、若い脳年齢賞は宮本悠美子さん、若い肌賞は82歳の高賀登さんが受賞されました。おめでとう御座います。凄いですね。みんな見習いましょう。